

開かれた学校づくりをめざして

I 研究の内容

1 研究の方法

(1) 研究の柱

- ・学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について
- ・学校・子どもたちが地域の人々や保護者とのつながりを生み出す実践
- ・研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れながら）

(2) 各部員が、各校の実践（子どもたちの変容の様子，問題点，悩み等）を報告し，それについて情報交換・協議し，研究を深める。夏季学習会では講師を招き理論研究を行う。常任講師の先生方に，常時ご助言・ご指導をいただく。

(3) 保護者・地域との連携について授業実践を通して研究を深める。

2 実践発表と授業研究

(1) 玉宮小学校「地域教材の活用」の実践発表

- ・米作りに関わる地域人材の活用について

(2) 山梨小学校「保護者・地域住民と提携した取り組み」の実践発表

- ・各学年の取り組み・保育園との連携・ろう学校との連携

(3) 東雲小学校「地域の人材活用」の実践発表

- ・農業体験・和楽器体験・清掃活動 など

(4) 三富小学校「地域に伝わる行事の取り組み」の実践発表

- ・太鼓・スナップゴルフへの取り組み について

(5) 井尻小学校「保護者・地域住民と連携した取り組み」の実践発表

- ・児童会のおまつり・地域との連携

(6) 加納岩小学校「保護者・地域住民を巻き込んだ取り組み」の実践発表

- ・有価物回収・花づくり

(7) 勝沼小学校「地域に根ざした教育活動」の実践発表

- ・親子活動・学習支援ボランティア など

(8) 夏季学習会・・・授業案検討・「家読」についての学習会

「地域おこし，町おこし」学習会

(9) 授業研究 第4学年 総合的な学習の時間「牧丘のむかし発見」

那須 美佳先生（牧丘第一小学校）

ねらい・・・地域の方から話を聞くことを通して，牧丘地域の昔の農業の様子やその移り変わり，農業に取り組んできた人々の思いを理解する。

授業の流れ・ゲストティーチャーを招き，牧丘の農業の移り変わりについて話を

聞いたり、質問をしたりする。生活を支え、より豊かにしていくために、時代にあった農業に取り組んできたことについて話し合う。

児童の様子・本時の学習内容に沿ったワークシートを活用し、一人一人の児童がはじめて知ったことや学んだことなどを意欲的にまとめようとしていた。ゲストティーチャーの方の話を目を輝かせて聴いていた。

(10) 授業研究 第2学年 特別活動「年長さんと交流しよう」

加々美 教子先生 樋口 仁美先生（岩手小学校）

ねらい・・・異学年との交流や英語活動を通して、人との関わりを育てる。

授業の流れ・・・年長児を招待し、英語活動のゲームを一緒に楽しむ。ゲーム活動を通して、英語に慣れたり、関わりを深めたりする。

児童の様子・・・1，2年生がそれぞれ年長児の面倒をみたり、優しく声をかけたりする場面が見られ、人との関わりをそだてるよい実践となった。保小の交流や地域との連携という視点から、多くの人材について考えるよい機会であった。

II 成果と課題

1 成果として

- 各校での保護者・地域との連携について協議を行う中で、様々な連携の在り方について学べただけでなく、その中で出された成果、課題について理解を深めることができた。
- 保護者・地域人材・地域教材を効果的に活用した授業研究を実施することができた。授業案検討、当日の研究授業と、参加者全員による共同研究として取り組むことができ、大変意義のある授業研究となった。
- 2本の研究授業を通して、保護者や地域住民との連携によって、授業内容の深まりや、子どもたちの興味・関心が高まることが感じられた。そのためには、日々の実践の中で、保護者や地域住民とのつながりを深めておくことが重要であると感じた。

2 課題として

- 研究授業を2本しっかり行えたことは意義深い。学べたことを整理し、事項の実践に少しでも生かせるようにしたい。
- 学校と地域とのつながりは、それぞれの学校によって異なっている。自分の学校について振り返り、連携の在り方を考えていくことが求められる。
- 地域の方・保護者の方にも学校での教育活動を広く知ってもらうことで、連携した教育活動をスムーズに進め、「学校を開く」ことにつなげていく。

III 成果物

○学習指導案2本・学習ワークシート ○各校の実践レポート○理論研究資料

(部長 長沼 薫)